

～JA上伊那の取り組み～

雪印活力資材の
アスパラ、ニンニク、胡瓜に対する
効果について

上伊那農業協同組合
美篤手良支所
営農課 赤羽 薫

1. JA上伊那の概要紹介

JA上伊那は、伊那市、駒ヶ根市を中心に辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、宮田村、高遠町の2市3町3村から成っています。

長野県の南部に位置し、県の10分の1に及ぶ豊かな大地が活動の舞台です。

面積では1,348平方キロメートル、その内耕地面積は13,400ヘクタールで標高480mから1,200mの範囲があり二つのアルプス（中央アルプス、南アルプス）と天竜川、三峰川が郷を潤す信州伊那谷です。

農業面では水田農業を基盤に、野菜・果樹・花卉・きのこ・畜産など多様な作物を織り込みながら県下の米どころとして着実に歩んできました。上伊那ではこの伝統のうえに（上伊那地域水田農業ビジョン）に基づいて、将来に向けた地域農業の振興に取り組んでいます。地域の人と自然、JAの組織力を活かし、上伊那らしい農業と地域ブランドの創造を進めています。

2. 雪印活力資材への取り組み

JA上伊那は、主力品目であるアスパラガス・ブロッコリー・白ネギ等を中心に、いろいろなメーカーと話し合いながら品質・単収向上試験研究を行ってきました。その中で、雪印種苗（株）から提案された「ジャックスパワー554」「スノーグローエース254」「闘根242」について昨年度より使用しました。

3. アスパラガス（品種：ウエルカム）

●若齢株と老齢株による収量比較試験

取り組み状況①：若齢株（収穫3年目圃場）

平成21年7月18日 SS-374（1000倍）
8月3日 SS-374（1000倍）と
スノーグローエース254（1000倍）
8月22日 SS-374（1000倍）と
スノーグローエース254（1000倍）
平成22年6月5日 SS-374（1000倍）
7月3日 SS-374（200倍）
スノーグローエース254（1000倍）
7月31日 SS-374（200倍）
スノーグローエース254（1000倍）



写真①
アスパラガスの立茎風景

※8月下旬・9月上旬のいずれかで最終処理予定。

※昨年3回処理、本年4回処理を予定し、春の収量確認を行った。



写真②
アスパラガス芽吹き

表1（収穫4年間の出荷束数）

年 月 日	春収穫(束)	夏秋収穫(束)	合計(束)
平成19年度		595	595
平成20年度	1606	8576	10182
平成21年度	4073	6297	10370
平成22年度	6014	6379	12393

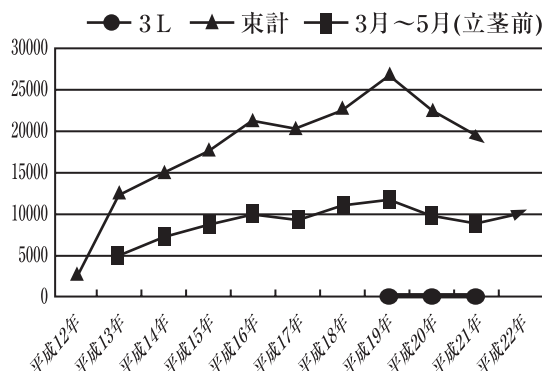
※表1の春収穫(束)は毎年5月31日までの収穫分で平成22年度秋収穫(束)は8月17日現在までの出荷束数です。

取り組み状況②：老齢株（収穫11年目圃場）

6月9日 SS-374（200倍）スノーグローエース254（1000倍）
7月15日 SS-374（200倍）スノーグローエース254（1000倍）
8月15日 SS-374（200倍）スノーグローエース254（1000倍）

※本年度3回処理で夏秋収量と翌年の春収量確認

グラフ①（アスパラガス収量調査）



結果：若齢株は平成21年度の処理により何らかの養分吸収と次年度への蓄積がされたと考えられる。老齢株については、収穫7～8年目までは春の束数が増加する傾向があるため増加率の予想がしづらいが、思った以上の収量があり増収につながった。老齢株は3回の処理のうち、7月と8月処理を行って1週間後の収量に変化が見られ、今後最終の収量と翌年の春収穫に期待したい。

※グラフ①は、老齢株の収穫年数の春、夏秋収穫比較のグラフです。収穫8年目（平成19年）がピークでその後、減少傾向が続いていました。

4. ニンニク（品種：ホワイト6片）

肥大促進と揃いの追及試験

取り組み状況①：栽培2年目生産者

4月5日スノーグローエース254（1000倍） Z ボルドー（1000倍）

5月5日スノーグローエース254（1000倍）

※本年度2回処理で形状調査

結果：2回の散布で無処理区と比較すると一回り大きく揃いの良い物になった。



写真 ニンニク球の大きさ

5. キュウリ（品種：金星）

8月盆過ぎからの樹勢の低下による収量減の解消と増収試験

取り組み状況①：栽培歴23年のベテラン生産者

平成22年7月30日 ジャックスパワー554（1000倍）

8月 4日 ジャックスパワー554（1000倍）

8月15日 ジャックスパワー554（1000倍）

8月21日 ジャックスパワー554（1000倍）

※本年度4回処理で樹勢の維持につとめた。



写真① キュウリの芽吹き



写真② キュウリの支柱内

結果：今年の夏は特に雨が少なく日照量が多いためキュウリ栽培には適していたが、成り疲れ等の問題もあり、終盤の収量の減が予想された。しかし4回の「ジャックスパワー554」散布により、新たな芽吹きの確認と、花房が多く見られ、樹勢維持につながった。今後9月期の安定収穫に期待したい。

6. その他品目

ブロッコリー、白ネギ、水稲の育苗で「鬮根242」を利用し、初期生育促進試験、育成確認試験を現在おこなっている。

7. まとめ

優れた資材を使用しても、天候等により効果が確認しづらいことがあり、適切な処理方法、栽培技術、土づくりが重要です。今後、上伊那管内の広大な農地に合った栽培技術の確立と、農業への活性化に向けた挑戦を続けていきます。異常気象が続く中、安定生産ができるよう今後も検討していきます。